

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文学部	3-1-1(教育)
2.	教育学部	3-2-1(教育)
3.	法学部	3-3-1(教育)
4.	経済学部	3-4-1(教育)
5.	理学部	3-5-1(教育)
6.	医学部	3-6-1(教育)
7.	薬学部	3-7-1(教育)
8.	工学部	3-8-1(教育)
9.	教育学研究科	3-9-1(教育)
10.	医学系研究科	3-10-1(教育)
11.	人間社会環境研究科	3-11-1(教育)
12.	自然科学研究科	3-12-1(教育)
13.	法務研究科	3-13-1(教育)

文学部

I	教育水準	3-1-2(教育)
II	質の向上度	3-1-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、人間学科、史学科、文学科の3学科、16コースで組織されており、国立大学の文学部として標準的な編成であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、コースごとに受入れ上限数を設け、小人数教育の体制を維持し、また授業の公開をしている点等が評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、共通教育と専門教育をくさび形に配置し、履修コースごとに教育方針を掲げているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、文系他学部との間に副専攻制度を設け、また、単位互換、国際交流、異文化体験、就業体験等の取組によって多様なニーズへの対応に努力しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、人間学科、史学科では、演習に加え実習、実験の履修を求めるなど努力は認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、外部検定試験による単位認定、e-learning の活用や環境作りの努力は認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況は良好であり、特に当該学部が重視する卒業論文の成績において、S・Aの成績比は73.8%と高い。また、学位授与率（学位授与数／入学者数）は91.6%である。資格取得状況については、学芸員資格、教育職員免許状及び社会調査士等の各種資格取得者が多数いるほか、様々な語学検定資格を取得する者もいる。学生の受賞状況については、全日本学生フランス語弁論大会での入賞者や、学生研究論文でポスター発表者に選出された者がいる。また、平成16年度以降、11名の学生が「学長研究奨励費」を得たなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成19年度に実施した授業評価アンケート結果によると、学生の授業の満足度の平均値は3.54ポイントであり、「普通」（3.5ポイント）をやや上回っている。また、平成18年度に実施した平成17年度卒業生を対象にした教育に関するアンケート集計結果によると、当該大学で学んだ教育内容について、「十分満足している」または「ある程度満足している」と62.5%が肯定的な回答をしているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の約 20%が大学院に進学し、約 67%が就職している。就職先は、公務員、情報通信業、製造業、金融保険業など多岐にわたっている。また、就職地は地元をはじめとして4割以上が石川県とその隣接県に就職し、その他は全国に展開しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 17 年度卒業生による自己評価結果によると、卒業生による自己評価が特段高いとはいえないが、当該大学で学んだ教育内容の満足度が 62.5%となっている。また、当該学部のみデータではないが、就職先に対して実施したアンケート結果によると、「金沢大学の教育の方針・内容は総合的に判断して優れていると言える」と評価するものが、「十分あてはまる」と「ある程度あてはまる」を併せて、80%以上を占めており、概ね高い評価を得ていることなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部

I	教育水準	3-2-2(教育)
II	質の向上度	3-2-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員養成を中心に、社会の様々な分野に貢献できる高度な総合的教育実践力をもった人材の養成を目的とし、この目的を達成するため、4課程20コースを設置して専任教員と学内外の兼務教員を配置し、学生の教育に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ウェブサイト版シラバスの導入と学生による授業アンケートの実施の他、教育内容、教育方法の改善に向けた体制を整備し、教育内容や教育方法の改善を推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程が教養教育のための共通教育科目と専門教育のための専門科目により構成され、また教育課程の編成の趣旨に沿って、授業科目が適切に配置され、授業が実施されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、関係者の期待に応えるため、学生の多様なニーズや社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮し、授業が実施されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態（講義、演習、実験と実習）や、学習指導法の改善を行い、シラバスの活用や教育の質の向上等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自主学習を支援する環境を整備し、学生の主体的な学習を促す取組を行い、教育の改善に努力している。また、授業担当教員の個々の努力や工夫だけでなく、履修単位数の上限設定等の制度及び組織的に支援する体制が整えられている。特に、「なるためノート」による自学自習支援システム構想があり、ウェブサイト版「なるため実習ノート」は、平成18年度文部科学省資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）に選定され、実施されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業生の教員免許状取得やそのほかの資格の取得状況が示すとおり、教員養成を中心に、社会の様々な分野で貢献できる高度な総合的教育実践力を持った人材の養成という教育目的に沿った教育成果を上げているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業アンケートが実施され、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会が中心になり、教育方法、シラバスの改善や少人数クラスの授業導入等の教育の改善が図られ、教育効果も高まり、学生に満足感を与えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の70～80%が就職または進学し、学部教員養成課程の教員就職率が大きく上昇しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、学外の関係者や卒業生からの意見聴取等の結果から、教育の成果や効果が上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法学部

I	教育水準	3-3-2(教育)
II	質の向上度	3-3-5(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成16年度より法政学科1学科体制とし、教員の基本組織として大講座制を、また教育課程の中心にコース制を採用している。大講座には、法政基礎理論、公共法政策、企業法、共生社会論の4講座があり、それぞれに7名から11名の教員が所属している。大講座の内容は、伝統的な法学部の教育・研究を基礎としつつ、法律学と政治学の融合によって現代社会の課題に対応しようという意図が読み取れる。また、専任教員36名に対して在籍学生数が842名であり、その比率は1:23と良好な比率を示す（数値データは大学情報データベース「現況分析用データ分析集」2007年度（平成19年度）を参照）などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、FD委員会を設けて、授業方法・工夫に関する紹介と意見交換を行う「FD研修会」、授業評価アンケート、教育方法改善のため教員相互の授業参観を行う「公開授業」等を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、1年次から4年次まで「共通教育科目」と専門科目を提供するカリキュラムであるが、1年次では共通教育科目の比重を大きくし、学年が進むにつれて専門科目の比重が拡大するという履修形態を採っている。「共通教育科目」では、導入科目として「初学者ゼミ(通称、ブリッジセミナー)」を必修とし、学際科目、IT関連科目に必修単位数を設けるほか、言語科目も開設している。専門科目については、2年次で「公共法政策コース」か「企業法コース」のいずれかを選択させ、それぞれのコースごとに履修すべき科目に特色を持たせている。また、2年次から「基礎演習」を、3・4年

次に「演習」を設定しているほか、外国語講読、外国文献研究などの小クラスを設置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、インターンシップに対して2単位を与えるとともに、「いしかわシティカレッジ」（石川県内の高等教育機関が連携して授業を提供している）や放送大学等の授業の履修についても単位を認めるなど、学生の履修に幅を認めるとともに、インターンシップ等を通じて社会との連携を進めようとする努力をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義科目、少人数教育科目、実習科目の3種類の授業形態を組み合わせることにより教育効果を高めようとしている。学年が進むについて、少人数科目の割合が高まり、3・4年次では講義科目より少人数教育科目の数が上回る。また、演習を重視し、3・4年の2年間履修可能であるほか、4年次には指導教員以外の演習を4単位まで履修可能としている。そのほか、シラバスの充実などについても一定の努力をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、『法学部ハンドブック』を作成し、各種図書館（室）の利用法、文献・判例・法令の検索方法、レジュメの作成方法等を解説している。このハンドブックの作成に当たっては、学生編集委員も参加させている。その他、全学生に対してアドバイス教員を指定し、教員のオフィスアワーを設定するというように、一般に期待される体制を整備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、専門科目の成績が分布において S が 8%、A が 26%、B が 28%、C が 24%、不可が 14%であり、学生の能力をほぼ適正に評価し、安易な単位付与が行われていないことが見て取れる。一方で、卒業については、期間中の 4 年間では毎年、入学定員を超える卒業生が出ており、大半の学生が卒業にいたるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「授業方法改善のための学生アンケート」の授業理解度に関する回答において、「どちらとも言えず」以下の回答が過半数を占めているものの、平成 18 年度後期のアンケートでは 4 割強の学生が「とてもよく理解できた」「かなり理解できた」と答えている。また、知的興味については、「とても持てた」「持てた」が過半数を占めていることは一定の評価ができる。卒業生の満足度については、アンケートによると、「十分満足している」と「ある程度満足している」の割合が 52%で過半数に達するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率は平成 19 年度で 88%となっており、一定の水準にある。就職先としては、公務員の割合が大きく、さらに就職先の地区別内訳を見ると石川を中心に北陸 3 県が多数を占めていることから、北陸唯一の国立大学法学部の特色を発揮すると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、地元の石川県をはじめ北陸 3 県での就職者が多いことや、とりわけ公務員になる卒業生が多いことから、地域社会を中心におおむね高い評価を受けていることが推認されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部

I	教育水準	3-4-2(教育)
II	質の向上度	3-4-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部内に6大講座を組織し、教員の適正配置と優秀な人材の確保に努めるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学部主催のFD集会を開催するなど教育内容や教育方法の改善に向けた研修活動を推進しており、また、授業評価アンケート結果の活用が図られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学部教育全般の基礎となる教養教育では1年次に経済学の基礎となる科目を配し、専門科目は2年次以降に4コースを設定するなど体系的な編成がされ経済学部の標準的な内容を整えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、文・法学部との間に副専攻制度を導入し人材育成に関する社会ニーズの多様化に対応するとともに、地域ニーズに応える地域経済活性化に関する講座を開設するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、基礎演習をコミュニケーション、文献収集、レポート作成などの能力養成の場として位置づけ必修化しているほか、e-learningや大学院生によるティーチング・アシスタント（TA）を活用するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、予習・復習を伴う学修の実質化を促すため履修単位数の上限を設定しているほか、ゼミナールを核として、学部内ゼミナール大会、学生論集の作成、他大学ゼミナールとの交流促進等を通じて学生の主体性を引き出す努力をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、入学後4年間で学位を取得する学生比率が平成16年度から平成19年度に95%以上となっているとともに、毎年教員免許を約10名が修得、平成19年度公務員に42名が就職という結果を得るなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成19年9月に実施された「教育および学生生活に関するアンケート」によって、資料文献収集、レポート作成、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力が高学年ほど身についたとする割合が高くなっており、その比率は80%前後に達しており、社会を視る眼の深まりや経済学的な見方についても3、4年次での評価が高くなるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、65～70%が民間企業、15%が官公庁に就職しているほか10名程度の大学院進学者がおり、多様な分野に人材を輩出するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生アンケートで教育目的の達成度を約50～70%が肯定的に評価しており、また、就職先アンケートで当該学部卒業生の専門的知識、幅広い教養、問題解決能力、バランス感覚などが高い評価を得るなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学部

- I 教育水準 3-5-2(教育)
- II 質の向上度 3-5-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球学科、計算科学科の6学科で組織されており、総学生数828名に対し、専任教員数112名の比率が比較的高い組織編成を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、同学部に教育委員会（月1回開催）を設置するとともに、年1、2回のファカルティ・ディベロップメント（FD）シンポジウムの開催や学生授業アンケート（ウェブサイトで公開）を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、1・2年次に主に共通教育科目（38～43単位以上）を、2～4年次に主に専門科目（78～84単位以上）を履修する編成となっている。共通教育科目、基礎科目、専門科目のそれぞれが体系的に編成されており、バランスも取れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、理数系の基礎学力を身に付けさせるための基礎科目の系統的な開講、理学英語の開講、学生の海外派遣等を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態については年次ごとの講義科目の配列が適切であり、学習指導法については、e-learning 教材の活用、オフィスアワーの設定、ティーチング・アシスタント（TA）の活用による少人数教育等工夫をしている。また、シラバスについては、学生が事前に授業の情報を入手できるようウェブサイトで公開しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、数学科での1年次学生への個別指導、物理学科でのデモンストレーション用実験開発コンテスト、化学科でのe-learning テキストの作成とテスト・レポートの添削後の返却、生物学科でのグループ演習、地球学科での地学実習、計算科学科でのレポート・小テストの反復等、学科ごとの独自の工夫も見られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、92%という高い率で標準修業年限で学生は卒業している。教員免許を取得する学生の割合は高く、平成16年度以降4年間の学生の平均取得率は61%に達している。また、国際的な学術雑誌に掲載される研究や、コンテストに入賞する研究が行われ、「いしかわCGコンテスト」では平成16年度から平成18年度の間、最優秀賞1件、優秀賞2件、入選2件を獲得しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業方法改善のための学生アンケート（5ポイント制）の結果によれば、1・2年次、3・4年次ともに3.6ポイントで学生の満足度はおおむね良好である。なお、平成18年度に実施した卒業生アンケート（平成17年度卒業生）によれば、金沢大学で学んだ教育内容を肯定的に捉えている卒業生が49%、否定的に捉えている卒業生が23%（残り28%はどちらともいえないと答えている）で、満足度は高いと判断されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断さ

れる。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成19年度では、卒業生の大学院への進学率が高く（72%）、研究者、技術者の養成に重要な貢献をしていることが伺え、就職者は23%である。進学率と就職率の和は95%に達している。製造業、情報通信業、教育学習支援業、公務員など、当該学部で得た知識・能力を活かした職種に就くことが多いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生に対するアンケート結果では、教育内容の満足度の項目において約50%の割合で高い評価を受けている。また、就職先企業へのアンケートから、卒業生が多面的な資質・能力を備えているとのかなり肯定的な回答が多く、高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部

I 教育水準	3-6-2(教育)
II 質の向上度	3-6-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、医学教育に必要な教員が確保されており、教育目的を達成するのに十分と考えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学教育方法の改善に取り組める組織編成が出来ているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、医学科における教育課程の編成については、全国共通「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を満たす知識を得られるよう編成されている。また、進級バリア、全国共用試験（CBT）及び客観的臨床能力試験（OSCE）を行うことによって、達成を客観的に評価しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、医学部外卒業生の養成のため3年次編入を実施している。また、MD-PhD制度が作られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、現在、少人数制の教育は各大学で行われており、目新しいものではないが、当該大学での工夫が見られる点は評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、医学科では成績優秀者への表彰制度があり、勉学の奨励に対し評価できる。また、保健学科で行われている病院見学後のアンケート結果から、学習意欲を高める動機付けとなっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、医学科に関する限り、医師国家試験の合格率は国立大学では中程度であり、保健学科は現状で水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、医学科では「授業への総合的満足度」のアンケート調査が行われており、比較的満足度の高い回答数が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、医学科において、ほとんどの卒業生が各病院に就職を果たしている。また保健学科においても就職率 80%以上、進学率 15～20%で

あるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生に実施したアンケートにおいて、例えば「チームの中で仕事を遂行できる協調性やバランス感覚の達成度」でおおむね高い評価を示しており、医学部における少人数教育やチュートリアル教育、臨床実習等が評価されていると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

薬学部

I	教育水準	3-7-2(教育)
II	質の向上度	3-7-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、バランス良く教員配置が行われており、教員一名当たりの学生数及び教員担当授業数も適当であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、授業アンケートを実施して結果を担当教員に周知するシステムを導入しているほか、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を定期的を開催して教育内容・方法の改善を推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、2学科の人材養成目的に合致したカリキュラムが体系的に編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、国家試験等と適合するよう体系的な教育課程を編成しており、インターンシップの制度を利用して、製薬企業等で実務体験を積む学生が少数ながらいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各教科の特性に合わせて講義・演習・実習が適切に配置されており、またティーチング・アシスタント（TA）の協力により実習を充実させ、アドバイス教員制を導入して就学指導を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、薬学概論や初学者ゼミを開講することを通して、学生に主体的な学習を促す取組を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、法人化後に薬剤師国家試験の合格率は若干低下傾向にあるものの留年率が低下傾向にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、アンケートの結果から、学業の成果は上がっているとは言い難い学生が一部存在するものの、おおむね理解できているという自己評価しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の 65%程度が大学院に進学しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、保険薬局や病院薬局からの評価も高いことが認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部

I	教育水準	3-8-2(教育)
II	質の向上度	3-8-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、同学部内に6学科を設置している。教員一名当たりの学生数は学部平均で12名弱であり、また、学科編成についても社会的要請に応じて見直しを図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育方法改善委員会が中心となり、全教職員参加の教育方法改善シンポジウム、初任者教員対象の研修会や講演会、優秀教員による公開授業等を行っていること、卒業生に対する達成度評価アンケートを行い、教育効果の確認および改善を行っていること、4学科（5プログラム）について日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を取得しており、継続的な教育改善活動を進めるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、共通教育科目と専門科目について年次進行により専門科目が増える楔形カリキュラムを設定し、各学科がそれぞれの特徴を反映した形で専門科目を基礎・応用の段階に応じて、3～5の科目群に分類し、基礎から応用へとバランスよく学べるように配慮するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、インターンシップについては、1学年400名強の学生数に対し、実施学生数が毎年120名前後であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、基礎的な講義、実験・実習科目を少人数で実施し、演習を行うことにより学習達成度を確認している。個々の学生に対するきめ細かな学習指導、生活指導を行うため、入学時から1教員に数人の学生を割り当てる相談教員制度を設けている。また、創成型教育科目を設定し、専門分野毎に独自の工夫とカリキュラムにより創造力育成に力を入れており、関連学会の教育賞を獲得するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、創成型授業は、問題設定から解決までを少人数で行っており、学習における主体性の育成を目標としている。また、ネットワークを利用した教材提供システムを学部として導入しており、学生は自主的な学習、授業や宿題等の資料閲覧等により、主体的な学習に役立てるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、82%の学生が4年間で卒業し、編入生はほぼ100%2年間で卒業しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価アンケートにおける「3、4年生の授業全体の理解度」の項目の評点が、平成16年後期3.18、平成18年後期3.36となっており、学業の成果について高く評価するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の約 60%が大学院に進学している。就職希望者で就職しなかったのは公務員浪人等の目標がはっきりしているものを含め、3.2%であり、就職率はほぼ 100%となっている。就職先は、それぞれの専門知識を活かせる企業が大部分であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生に対する達成度評価アンケート、企業向けに行ったアンケート、リクルーターとの面談において高い評価が得られているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

I 教育水準	3-9-2(教育)
II 質の向上度	3-9-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育学研究科は、学校教育専攻、障害児教育専攻、及び教科別の10の専攻（国語教育専攻、社会科教育専攻、数学教育専攻、理科教育専攻、音楽教育専攻、美術教育専攻、保健体育専攻、技術教育専攻、家政教育専攻、英語教育専攻）の計12専攻で構成され、教育学部専任教員に加えて学内から関連する専門分野の教員を研究科専任として配置している。また、研究指導教員一名当たりの学生数については、研究科全体で約1.7名となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成16年度から、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会が教育学研究科の教育内容や教育方法の改善に取組、研究科の教育内容と教育方法の改善に向けた体制を編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学生と社会の多様なニーズに対応した教育課程を編成するとともに、実践的な教育研究者の養成を目指し、教育の理論と実践のバランスを重視した教育課程が編成されている。教育現場の要請に合致するような大学院教育を行い、実践的な指導力を備えた専門的教育者の育成を目指しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会人学生のための長期履修制度や学校パートナー制度の導入のように、現職教員をはじめとする社会人学生への細やかな配慮をした教育課程が用意されている。さらに、FD委員会が、学生や社会からの要請に対応す

るため、研究授業の実施、公開授業期間の導入や研修会の開催等に取り組み、教育学研究科の教育内容の改善や向上を推進し、教育効果を上げているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態（講義、演習、実験と実習）をバランス良く組合せ、学習指導法の改善を行い、また、適切にシラバスを作成、活用している。特に、少人数教育を多く実施し、教育効果を高めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、少人数の授業の推進により、学生自身が調査、実験、分析、発表、討論等により進める形態にするなど、学生の主体的な学習を促す取組を積極的に進め、教育課程や教育方法の改善を図り、教育成果と質を高めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、社会のニーズに対応するために、教育学研究科の教育内容や教育方法の改善により、学生の専門的な能力や技能の向上が図られてきた。平成19年度の修了者は52名で、在籍者（58名）の9割という比較的高い率になっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業アンケート結果と修了生によるアンケート結果から、当該教育学研究科における教育に対する比較的高い満足度が確認されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16 年度から平成 19 年度の就職者と進学者を合わせた割合は 71%、45%、73%、77%で推移しており、平成 16 年度から平成 19 年度の教員採用率は、4 年間の平均が 65%であり、教員採用試験対策講座や現職教員・石川県教育委員会関係者を招いた懇談会・講習会も行われているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生や就職先等の関係者からの意見聴取等の結果から、関係者の期待に応える教育の成果や効果が上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 2 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学系研究科

I 教育水準	3-10-2(教育)
II 質の向上度	3-10-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、医学系研究科において、各領域を4つの専攻にまとめて、領域横断的に学べる組織編成としている。十分な学生の確保がなされている。医学系研究科に大学院修士課程を設置しており、優秀な学生が飛び級で内部進学できるようにしてある。保健学専攻においては、大学院博士後期課程で大学教員等専門領域を育てる体制が出来ていることが評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成18年度より施行されている新カリキュラムの成果は不明であるが、学生の授業評価アンケートによると、満足できる評価を得ているので、改善成果が認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、各領域の枠を超えて4専攻が作られており、学生が所属する講座の壁を越えて幅広い知識を得る機会が与えられているのが良い。大学院修士課程の授業科目では生命科学の知識が過不足なく得られるような編成になっている。保健学専攻では、地域医療にたずさわる「臨地マネジメント」等新しい演習が盛り込まれ十分な単位が整備されている点は、評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、医学系研究科において、優れた研究業績のある学生には、早期修了制度がある。また、臨床研究者養成コースを設けて、病院・行政等に就職した医師の博士号の取得を積極的に進めている。保健学専攻では社会人を積極

的に受け入れるため、夜間・休日、夏季集中講義や夜間研究指導等は、高く評価できるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、医学系研究科の基礎授業は全科共通のバランスがとれ、シラバスをウェブサイト上で公開し利便性への工夫が見られる。留学生を対象とする英語での講義は新しい工夫であるため、評価でき、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、医学博士課程では、抄読会や研究会への参加も単位として認められるほか、学会発表や発表論文も単位として認められるため、学生の実地的、主体的研究姿勢を啓発している点が高く評価でき、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、医学博士課程では最終的な学位取得状況は80%以上、大学院修士課程ではほぼ100%が学位を取得している。また、大学院生の英文論文も相応の水準となっている。学会発表も同様であり、学生の能力や資質の向上が見られているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院博士、修士の両課程修了者にアンケート調査を行っており、大学院博士課程の場合、研究テーマへの満足度は6段階評価で上位2段階の回答が63.2%、研究成果への満足度は同57.9%、入学前の期待に対する全体としての満足度は同52.6%であり、保健学専攻においても、研究指導内容に76.3%が満足し

ており、両者共におおむね満足の回答を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程から医学博士課程への内部進学者が 38%と多いのは、高度な医学研究者を養成する目的に合致している。保健学専攻においても後期課程への進学者が多いことなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、関連病院に就職した医学博士課程修了者は研究心を備えた専門医として歓迎されている。保健学専攻の博士前期課程修了者で他大学の博士後期課程に進学して高い研究能力が評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 5 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

人間社会環境研究科

- I 教育水準 3-11-2(教育)
- II 質の向上度 3-11-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、人間文化専攻及び社会システム専攻のもとに三つのコース、公共経営政策専攻に二つのコースをそれぞれ設置している。大学院博士前期及び後期課程において学生数に比し、十分な研究指導教員数を配置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、大学院教育実質化委員会を設置し各学期終了時に授業内容及び教育環境の満足度を調査するアンケートを実施し、その結果を研究科内で公表するとともにFD集会で取り上げるなどしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間社会環境研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人間社会環境研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、博士前期課程にあつては共通科目、基礎科目、展開科目の3群を、博士後期課程にあつては共通科目と専門科目の2群を設けて教育課程を体系的に編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、博士前期課程にあつては現職社会人短期在学コースを設置し、博士後期課程にあつては早期修了制度や長期履修制度を設けるなど、学生の多様なニーズに応じた対応を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間社会環境研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人間社会環境研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、博士前期課程にあつては入学前に主任指導教員が学習・生活環境に関する相談を実施することによって早期に「学習計画の流れ」を作成できるような体制を作っており、博士後期課程にあつては「院生別カルテ」を作成して個に応じた集団指導体制を整えているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、博士前期課程にあつては優秀な修士論文を積極的に評価する認定制度を設置している。博士前期・後期課程の正規の学生全員に専用の机・イスを確保し、学生の立案した調査・実習を「プロジェクト研究科目」として単位認定しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人間社会環境研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人間社会環境研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、博士前期課程にあつて平成19年度修了予定者数61名に対する修了生42名の割合は68.9%である。また博士後期課程にあつて平成19年度の「プロジェクト研究科目」の採択者が在籍者数25名中13名になっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、博士前期課程の学生アンケートにより「資料・文献を収集するノウハウ」等の能力を身に付けたと評価する者が多く、博士後期課程にあつても授業評価において「有益だった」と評価する者が多く見られるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人間社会環境研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結

果、学業の成果は、人間社会環境研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、博士後期課程は、いまだ修了生を出していないため、修了後の進路状況を判断できる状態にはない。博士前期課程にあつては修了生 42 名中進路未定者が 12 名（28.5%）いるとはいえ、進学率は 16.7%、就職率は 54.8%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、提出された現況調査表の内容では、関係者からの評価調査として必要かつ十分な調査とはいえないが、博士前期課程の社会人教育修了生の聞き取り調査によれば、当該大学院での教育が職場で高く評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間社会環境研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人間社会環境研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

自然科学研究科

- I 教育水準 3-12-2(教育)
- II 質の向上度 3-12-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、複数指導制をとり指導教員一名当たりの学生数も少なく良い環境にあるといえる。大学院博士前期課程では、理学、工学、薬学の基礎と応用に関して、学士課程教育からの発展から最先端の研究へ向けて6年一貫性を配慮した編成となっている。大学院博士後期課程では、学際化・国際化を図るとともに、高度な専門性を身に付ける配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、FDシンポジウムを実施しており、学生と教員の懇談会を設けているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学部と大学院博士前期課程の一貫した教育が行われている。連携講座による多様な授業科目が設けられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、技術経営コースをはじめ多彩な実用的かつ国際的なプログラムを用意しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、複数指導制をとるとともに、シラバスも充実しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自主的な学習環境として学生の居住スペースに配慮しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士後期課程の短期修了生が毎年6～19名となっている一方で、当該課程の学生の修了生割合が60%台であり、博士号授与者数が88～115名であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の評価においては、国際性という観点では、必ずしも評価は高くないが、論文作成能力やコミュニケーション能力では一定の評価が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を下回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程修了生の進学・就職状況はおおむね良好である。しかしながら、大学院博士後期課程修了生のうち 105 名と少なからずの者が就職ないしは進学をしていないことから、期待される水準を下回ると判断される。

「関係者からの評価」については、一部では、課題設定能力や発表能力の不足が指摘されているケースもあるが、就職先からのアンケートはおおむね良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 2 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法務研究科

I 教育水準	3-13-2(教育)
II 質の向上度	3-13-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学生の収容定員 120 名に対し、専任教員 16 名（教授 15 名、准教授 1 名）を配置し、専門職大学院設置基準を満たしている。専任教員の 31%（5 名）を実務家教員が占め、実践的な法曹養成が実現できる体制を整備しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、カリキュラム・FD 委員会において、学生向けアンケート調査の企画・実施及び結果の取りまとめ、教員研修会の企画・開催・運営、カリキュラム編成の在り方の検討を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法務研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、法律学の基礎から発展・応用へ、理論的教育を踏まえて実務教育へと段階的に学修できるようにとの配慮に基づき、教育課程を体系的に編成するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、講義形式だけではなく、双方向・多方向的な質疑応答を交えた教育方法を採用し、その実効性を上げるため、講義科目では 1 クラス 40 名、演習科目では 1 クラス 20 名の少人数で授業を行っている。また、社会からの要請への対応として、地方自治の現状と課題、公共政策論（政策法務）といった政策学系の科目を配置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法務研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態の組合せについては、講義、演習、実習を適切に組み合わせて実施している。学習指導法の工夫については、少人数授業を実施するためにクラス分けを行っているとともに、シラバスを冊子体とWEB版の2種類で作成し各科目の学習目標を明示するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、双方向・多方向授業を行い、その実を上げるために、シラバスや履修ガイダンスにおいてあらかじめ文献等を指定し、学生に対して十分な予習を求めている。また、授業において小テストや中間試験を実施する科目もあり、学生は十分な復習をすることも義務づけるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法務研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、司法試験の合格者は、平成18年度は1名（受験者2名）、平成19年度は8名（受験者24名）であり、数字としては改善の余地があるものの、まずまずの結果であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業評価アンケートの結果によれば、授業レベルの適切性や理解度等を含めた「総合評価」の学年ごとの平均値は3.62から4.16（5点満点）であり、今後一層の改善努力は必要であるものの、学生からはおおむね肯定的な評価が示されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業

の成果は、法務研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 17・18 年度の修了生のうち、法曹となった者 1 名、司法修習生 8 名を数え、33 名中 9 名（27%）が法曹界に進むなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 17 年度に本研究科を修了し、現在弁護士となっている者（1 名）から意見を聴取したところ、当該研究科における少人数・双方向型の授業により議論を組み立てて発言する能力が身につく、司法試験のみならず、実務においても役立っているとの回答を得ているとの記載があるが、より組織的な形で意見を聴取することが望まれる。しかし、司法試験の合格率等を勘案すれば、一応期待される水準にあると見ることができるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法務研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は 1 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。